

飢餓対策ニュース

わたしから始める、世界が変わる



フィリピン・タワービル地域の子ども
(2、3面に西南学院大ワークキャンプ記事)

問題解決は一人ひとりから

日本国際飢餓対策機構 財務部総主事 高橋献一

少し前に「人を殺してみたいと思った。死ぬところを見てもみたかった」という驚くべき理由で同級生の命を奪った学生が逮捕されるという事件が起こりました。近年のアニメにも、以前にはなかったような残虐なシーンが多く見られるようになる一方で、おまじない一つで死者が何度でもよみがえるようなストーリーもよく見られます。

こうしたことを背景にしているのでしょうか、理由なき殺人や、極めて短絡的な理由で簡単に人の命を奪うということが、多くなってきました。あまりにも命が軽んじられるようになったことに大きな憂いを覚えます。

ひるがえって、私たち自身はどうでしょう。「愛の反対は、憎しみではなく無関心である」とマザー・テレサは言いましたが、周囲の人や出来事への無関心、見て見ぬふりはとても多いのではないのでしょうか。考えるのは自分の利益だけで、それ以外の多くのことに他人事のような態度を取る私たち大人が作り出しているこの状況が、子どもたちに悪影響を及ぼしていると思わざるを得ません。

外に目を向けてみても日本は、世界から食料品を買いあさっている国です。年間約3億人分に匹敵する食料を輸入しています。それには、食用家畜の飼料や、ペットの餌になるものも含まれています。

厳しい言い方をすれば、私たちが豊かな食生活をするために、世界中から食料を収奪しているということでもあります。一方で今、世界には飢えや貧困と闘っている人たちが9億人近くもいるという事実には無関心です。その中には紛争やテロによって、本来の生活圏を奪われて難民と化した人たちもおられますし、地震や干ばつや洪水といった自然災害によって危機的な状況に追い込まれた人もいます。また、バナナやカカオに代表されるような構造的に工業先進国による収奪の直接的対象となった人たちもいます。私たちが他人事のように感じているこうした世界の現状も、実のところ私たちが責任の一端を担っているとさえ言えるのです。

ぜひ、この現実に関心を寄せてそこから一歩踏み出し、困難の中にある人々に手を差し伸べてください。私一人ではどうにもならないと思われるかもしれませんが、人は一人ひとり生まれてくるものですし、たとえ紛争や飢餓で多くの方が亡くなったとしても、十把一絡げに死んでゆくものではありません。

まず1人が1人に手を差し伸べることから、問題解決の糸口は見えてきます。今日あなたから始めていただければいいかな。

◆ 千葉佐倉市でメサイアコンサート 収益からウガンダ学校建設に寄付

「佐倉メサイアを歌う会」主催によるヘンデル・メサイアコンサート(指揮:春日保人)が、5月30日(土)午後1時から千葉県佐倉市民ホールで開催されます。

同会は佐倉市民有志を中心に2年毎に開催、これまで東日本大震災被災者支援として、収益の一部を当機構に寄付していただきました。今年のコンサートでは、メサイア全曲を演奏します。チケットは2千円(全席)、お求めはTEL: 03 (3727)0479 メディアチャバまで。



◆ 4月12日はパンの日です おいしい「パンの缶詰」をどうぞ! 備蓄食シリーズ 1缶100g入り税込430円

- ①3缶セット税込1,290円 + 送料 800円
合計 2,090円を 1,890円で
- ②6缶セット税込2,580円 + 送料 800円
合計 3,380円を 3,000円で
(送料: 沖縄、北海道は別途 800円)
- ③非常備蓄食 兼 飢餓救済
救缶鳥プロジェクト参加 15缶セット
1缶 200g入り 税込12,420円(送料無料)
備蓄 2年後買換えを前提に回収したものを飢餓地域に届けます。詳細はお問い合わせください。

※③は入金確認後パン・アキモトからお届け
オレンジ味、レーズン味、ストロベリー味の
3種セット、賞味期限は製造から3年です。
【お申し込み】 株式会社キングダムビジネス
〒540-0026 大阪府中央区内本町 1-4-12NPOビル 402
TEL: 06-6755-4877 FAX: 06-6755-4888



2015年夏の海外キャンプ参加者募集します!

①ボリビアワークキャンプ

日程: 8月14日(金)~8月27日(休)
費用: 33万9千円(予定)
最低催行人数: 6名

②夏のファシリテーター・トレーニング キャンプ in フィリピン

日程: 7月29日(木)~8月7日(金)
費用: 16万8千円(予定) 最低催行人数: 10名
問合せ・参加申込みは、東京事務所 TEL: 03(3518)0781へ
※①②とも東京・大阪発着となります。



昨年のボリビアキャンプ



千代田ビル

◆ 愛知事務所が名古屋市中区に移転しました!!

【新住所】〒460-0012 名古屋市中区千代田2-19-16 千代田ビル3F
TEL: 052(265)7101 FAX: 052(265)7132

ハンガーゼロ サポーターを 大募集中!!

現在...
3月8日9日

今すぐ▶▶▶ 各種支援の お申し込み ができます!!

●まず右の必要事項に記入して、点線の枠部分を切り取りハガキに貼って、下記の大阪事務所宛に郵送、又はこの頁をコピーして、ファクシミリで申し込みください。確認のための必要書類等を送らせていただきます。
お電話でも申し込みできます。各事務所までおかけ下さい。

- ☐ ハンガーゼロ・サポーターとして協力します。
毎月 () 円 (1円 1,000円)
- ☐ チャイルド・サポーター(世界里親会) になりたいので説明書(申込書)を送ってください。
- ☐ 海外スタッフ・サポーターとして協力します。
毎月 () 円 (1円 1,000円)
- ☐ JIFHサポーターとして協力します。
毎月 () 円 (1円 500円)
- ☐ 今回に限り () 円協力します。
- ☐ 郵便自動引落し申込書を送って下さい。
- ☐ その他の銀行自動引落し申込書を送って下さい。

フリガナ 氏名: 男・女

〒

住所:

(電話)

▼申込日: 年 月 日▼NL 297号

FAX・072-920-2155

■発行者 岩橋竜介

■発行所 一般財団法人 日本国際飢餓対策機構

ハンガーゼロ
で検索!

Webサイトアドレス <http://www.jifh.org/>
eメールアドレス general@jifh.org
フェイスブック <https://www.facebook.com/hungerzero>

■募金方法 ※各種方法で随時受付中、詳しくは電話やウェブサイトで

- 郵便振替 00170-9-68590 / 日本国際飢餓対策機構
- 他の金融機関からの自動振替 ●クレジット、デジタルコンビニ

今すぐ
募金が
できます!



かざして募金

大 阪 〒581-0032 八尾市弓削町 3-74-1
TEL (072)920-2225 FAX (072)920-2155
東 京 〒101-0062 千代田区神田駿河台2-1 OCCビル517号室
TEL (03)3518-0781 FAX (03)3518-0782
東 北 〒980-0012 仙台市青葉区錦町1-13-6 エマオ2階E
TEL (022)217-4611 FAX (022)217-6651
愛 知 〒460-0012 名古屋市中区千代田2-19-16 千代田ビル3F
【新住所】TEL (052)265-7101 FAX (052)265-7132
広 島 〒730-0036 広島市中区袋町4-8 CLC ブックス2F
TEL (082)546-9036 FAX (082)546-9037
沖 縄 〒900-0033 那覇市久米2-25-8 メゾンズ米202号
TEL (098)943-9215 FAX (098)943-9216
U S A Ainote International c/o Mr. Takehiko Fujikawa
8010 Phaeton Dr. Oakland, CA94605
TEL (510)568-4939 FAX (510)293-0940

毎月、飢餓対策ニュースを皆様にお届けするた
めに、ひばり障害者作業所(八尾市)、生活愛
関西地区のボランティアの皆様が発送作業のご
協力をして下さっています。



西南学院大学フィリピン・ボランティアワークキャンプ

タワービル高校の生徒とフィリピン国際飢餓対策機構スタッフと西南学院生

タワービル地域を支え続けたFHフィリピン

同行レポート：吉田知基

マニラから車を北へ走らせ3時間のところにブラカン州タワービル地域はあります。ここは人口約4万人のうちマニラから移住してきた人が1万人ほどいます。この人たちはもともと地方から職をもとめてマニラに移り住み、土地の権利をもたない不法占拠住民として生活を送っていました。ところが9年前のマニラでのインフラ整備（電車開通）の際に、住んでいた場所が強制退去の対象となり、このタワービル地域に移らざるをえなくなりました。その結果、もともと住んでいた人たちとの間でトラブルが増え、地域の失業率も上がって治安が悪化、若者や大人の間では違法薬物の乱用が問題となりました。

また仕事がない人々はマニラへ

泊まり込みで出稼ぎに出る家庭が多くなり、子どもたちは親と会えるのが週に1回、あるいは月に1回という家庭もあります。普段親がいない世帯では祖父や祖母、親戚が子どもたちの面倒をみていますが、学校へ行かなくなったり、違法薬物に手を出したりしてしまうケースも出てきました。

フィリピン飢餓対策機構（FHフィリピン）はタワービルで11年間活動を続けてきました。11年前はこの地域に学校が1つもなくて、子どもたちは隣の街まで通う必要があり、通学費が家計の大きな負担となっていました。そのため親が子どもを学校へ行かせないこともあったのです。

FHフィリピンは地元政府や地域教会、各家庭に働きかけ、子どもたちがこの地域の未来であり、希望であることを伝え、教育の必要性を訴えてきました。子どもたちを学校に送り出せるように親の生活改善のために職業訓練や貯蓄プログラムを実施し、同時に新しい知識や技術を教えるだけでなく、得たお金を何に使うかという価値観の変革を促すセミナーを行ってきました。現在ではタワー

ビル地域に小学校が2つ、高校も2つ建設され、子どもたちが歩いて行ける距離にあります。

西南学院6度目の訪問

2015年2月26日～3月9日まで、このタワービル地域で福岡市の西南学院大学が主催するボランティアワークキャンプが行われました。この地域でのキャンプは6回



高校の学生らと建設ボランティアをする参加者

目となります。学生15名と教員2名、JIFHスタッフ1名を含む総勢18名のチームでタワービル高校のコンピュータ教室の建設と地元教会の修繕作業をお手伝いさせていただきました。

キャンプ期間中はタワービルの子どもから大人まで地域全体で、私たち日本チームを迎え入れて下さいました。特に地元出身の青年たちがボランティアとして、私たち

愛の種が子どもたちの心の中で成長

の身の回りのお世話をしてくださいました。彼らの中には、過去に訪問した西南チームのメンバーのことをはっきり覚えていて、嬉しそうに話してくれる青年がいました。彼らの奉仕する姿は本当に喜びに満ちていました。

青年ルイスの夢

その中の一人、ルイスという高校生は、コミュニティを愛し、地域の子どもたちをいつも気にかけている青年です。彼は、日本の大学生とフィリピンの子どもたちと



左から3番目がフィリピン人ボランティアのルイス

が思いっきり遊んでいる時も子どもたちを優しく見守り、事故や怪我が起きないように常に注意を払っていました。彼は将来の夢について次のように話してくれました。

「僕の夢はこのタワービルで牧師になること。FHフィリピンが僕たちに教えてくれた希望のメッセージを次の世代の子どもたちにも伝えたい」。

長年にわたってFHフィリピンや西南学院の学生を通して蒔かれた愛の種は、子どもたちの心にしつかりと根ざしていました。2016年5月をもってFHのタワービル地域における活動は終了しますが、この子どもたちの成長によって地域の未来は希望に満ちたものとなることでしょう。



西南学院大学生のワンボイス

養原匠 初めて自分が好きになれた



今まで自分の事が嫌いで仕方ありませんでした。しかし、このキャンプを通じて、村の子どもたちや青年たちと毎日一緒に笑い合い、助け合う中で、自分は生きていていいんだと素直に思うことができました。これまでの人生で初めて、自分のことが好きになりました。

橋口うらら どんな人にも愛をもって

フィリピンの人たちから学んだこと、それは、どんな人にも愛をもって接していくことです。また日本で生活する中で、すべての事に感謝し、周りの人たちを助け、積極的にボランティア活動にも参加していきたいと思います。



吉村健汰 人への思いやりを学んだ



家庭訪問でお世話を下さっているお母さんの住んでいる家を見ました。厳しい環境の中で生活をしているにも関わらず、私たちに愛をもって迎え入れもてなして下さいました。思いやりについて本当に考えさせられました。

福島彩加 出発点に立ち返りました

大学では経済を勉強していますが、単位がとれればいいという適当な気持ちで取り組んでいました。しかし、貧困の現場を目の当たりにしたことで、もともとなぜ経済を専攻したのかを思い出すことができました。企業が利益を生みながらいかにして社会貢献をしていくことができるのかをテーマに、これから大学での勉強を真剣に取り組んでいきたいです。



家庭訪問の様子

7月にフィリピンでファシリテーター・トレーニングキャンプを開催。海外での働きに関心がある人の学びです。（8面に案内）

地域を変える(元)避難民パメラの挑戦

ハンガーゼロ・アフリカ
Hands of Love Congo

ミナーでトレーニングが受けられたことを感謝している」と述べました。また「セミナーは私にとって人生のターニングポイントとなった。もし可能ならプエトでも同じようなセミナーを持ちたいと願っている。日本の皆さんに私たちがしていることを見て欲しい、どんな生活をしているかを知って欲しい」と彼は付け加えました。

結果をみて確信

農場で大きなマンゴの木の下に集まって話し合った時、「はじめてVOCについて聞いた時、私たちはパメラが嘘をついていると思いました」という声が返ってきました。「こんなに大勢の人たちが、一緒に働くために集まるとは思えなかったんです。でもあなた方や地域のリーダーに助けてもらってやってみて、そして結果を見た時私たちははっきりと確信を持つことができました。今私たちが耕作している地域は、去年の倍の面積があるんですよ」。私はプエトの避難民への支援と指導があればもっと多くの結果を出すことができると感じました。

ハンズ・オブ・ラブ・コンゴは避難している人のために、貯蔵庫を一つ借りました、そして豚、ヤギなどの飼育を始めています。プエトはたいへん良い開発の場所になり、神のみ国の建設を実現する場所となるでしょう。

それには私たちの継続的な支援を必要とします。農場プロジェクトは、確かに国内避難民の生活を変える一つのステップとなってきています。

と思ったのです。ほとんどの人が子どもを学校に行かせたいと願い、自分たちの家を建てることを望んでいました。プエトは彼らが以前暮らしていた所と似ているので、元の村に戻るつもりはもうないと言います。ここは自分たちと同じ言語を話し、親戚もいます、また今年の4月、5月に収穫したとうもろこしや豆、ピーナツは貯蔵場所が必要なほどの収穫がありました。彼らに目標を尋ねると、もっと耕す土地を増やしたい、そしていつか自分たちの耕作用トラクターも買いたいと言っていました。自分たちの生活水準を良くしてプエトに開発をもたらしたいと彼らは付け加えたのです。

【1月20日函】 私は栽培されている作物をもっと見たいと思い、農場に戻りました。避難民は12エーカーの土地を耕し、主食のとうもろこしや豆、ピーナツを栽培しています。誰が土地を提供してくれたのか尋ねると、パメラは地方政府だと答えました。「私たちはこの地方政府ととても良い関係にあります。私たちがプエトで良い働きをしているので、彼らは私たちに好意を持ってくれています。ルブンバシから時々指導員がきて、私たちがしていることを見にきます。この村での私たちの開発の活動について良い報告がされているからです」

パメラに「日本の人たちに何か伝えたいことはありますか」と尋ねると「国内避難民の皆さんを代表して日本のハンガーゼロ・サポーターの皆さんにお礼を言いたいです。またルブンバシで行われたセ

【1月19日函】 プエトの郊外にあるパメラの家を訪れました。奥さんと4人の子どもたち、そして紛争で殺害されたパメラの兄の子どもと一緒に住んでいました。かやぶきの小さな家で床に何も敷かずこの勇敢な家族は暮らしていました。「家賃は1ヵ月いくら」と尋ねると「7ドル」。そして彼は続けて答えました。「何もかもきつと良くなると思うよ、僕たちは働き始めたからね」この言葉から私は彼の勇気と決断力と共に、他の人に大きな影響を与える素晴らしいリーダーシップを見ることができました。

プエトを開発していきたい

同じ日の午後、私は避難民全員とミーティングをしました。プエトでの彼らの生活をもっと知りたい



▼紛争で亡くなった兄の家族も支えるパメラ



生活環境の改善で他からの避難民の意識にも変化



ることで、生活者が変わると気づきました。それで私はこのグループに加わることに決めたのです」彼女は以前はとても不安だったが、今はこのプロジェクトによって彼女の人生が変えられることを確信しているのもう心配していないと言っていました。

話しても、あまりよく理解されないまま、わずかな人数の仲間と農業を始めました。それが2014年の末には、130家族が参加するようになったのです。パメラの努力によってVOCの考え方が力強く伝えられたこと、そしてハンズ・オブ・ラブ・コンゴや地方政府によってそれが支えられたことを感謝します。

これは誰の農場？

【1月18日函】 朝、パメラが私と地域のリーダーを彼らが働いている農場に連れて行ってくれました。そこはザンビアとコンゴの国境近くにありました。訪れた村で、私たちは延々と緑が続くとうもろこしのプランテーションを通り抜けました。私は驚いてパメラに「これは誰の農場？」と尋ねました。パメラは照れたような笑顔で「国内避難民のものです」と答えたのです。私は嬉しさと同時に、その農場の広さと作物の品質の良さにショックさえ受けました。そしてその成果を大いに喜びました。歩く道すがら避難民たちが、地元の農民と一緒に朝早くから働いているのを目にしました。

次にプエトの近くの村から避難してきていた女性の1人に会いしました。このプロジェクトに参加し

Hands of Love Congo
ハンズ・オブ・ラブ・コンゴ



報告：ジェローム・カセバ駐在員

JIFHの協力団体、コンゴ民主共和国のハンズ・オブ・ラブ・コンゴ駐在のジェローム・カセバが、プエトで行われている国内避難民による農業プロジェクトを1月に訪問しました。避難している人たちは避難先のルブンバシでとても貧しい生活をしていました。サポートがなければ1日1食さえまもなく、1人の子どもを学校に行かせるのもむずかしい状態でした。しかし1年前に農場プロジェクトをスタートさせて以後、現在は1日に2回食べられるようになっています。このプロジェクトは、プエトで避難民たちを変革し、生活を変える大きな一歩となるでしょう。

プエトはコンゴとザンビアの国境にあるムウェロ湖に近い村で、人口は約2万人です。私はここでハンズ・オブ・ラブ・コンゴが支援している国内避難民による農業プロジェクトを訪問しました。そこで最も感激したのは、パメラと再会できたことでした。

パメラは2013年に、住んでいた村を略奪者に襲われ、国内避難民として136人の村人と共に450km離れたルブンバシに逃げてきてい



パメラさん（トウモロコシ農場で）

ました。同年ルブンバシで行われたVOCセミナー（JIFH主催）に参加した後、避難の混乱の中で別れ別れになってしまった家族を探し、再会を果たして戻ってきました。そしてセミナーで学んだことを、避難民の仲間と共にここプエトの農場で試してみる決心をしました。プエトは、農業プロジェクトに必要な降水量が一年を通してある地域だからです。

しかしパメラが避難民の仲間とVOCセミナーで教えられたことを



名前は？

子どもたちはルワンダ名と洋名を持っています。そして名字を持つのはごく稀なことです。ルワンダでは名字の概念がなく、洋名は20世紀半ばの植民地支配によって持ち込まれました。それに加えて別の名前を持つ子もいます。「その名前は何？」と聞くと、家ではそう呼ばれているとか、近所ではこう呼ばれているとか答えが返ってきます。

兄弟姉妹は何人？

子どもが教えてくれる兄弟姉妹の数から、日本の家族の数え方にたどり着くには、さらに質問を続けなければなりません。ルワンダ語では兄弟姉妹 (Abavandimwe) という単語は、父方の男兄弟と母方の女姉妹の子ども (いとこ) にも使うというのが理由の一つ。更にはいろんな親族と一緒に暮らしている家庭も多いので、子どもにとって年齢の近いおじ・おば・甥・姪が兄弟姉妹と数えられていることもあるのです。子どもにとっては、同じ両親からの兄弟姉妹同様に、大切な存在です。

ルワンダの南部、ニャンザに世界里親会が里子支援をしているピース国際学校があります。

私はここで、学校の里親会スタッフのサポートをしています。赴任当初、ここの里子たちの一貫しないデータに、「何ていい加減な」という気持ちだったことを思い出します。

うちの人の職業は？

地域の人の収入源は流動的です。季節によって、大工になったり農夫になったり仕事が変わる場合もあるし、一時に複数の収入源がある場合もあります。一つがだめになってゼロにはならないようにということなのです。

誕生日はいつ？

子どもが誕生日を知らないのは、おかしいことではありません。家族に尋ねても、出生届を出していないので分からないケースもあります。生後の赤ちゃんへの予防接種は義務化されているので、その記録からかろうじて生まれた年は想定できます。

生まれた日も大切だけれど、さらには生き続けること、生かされていることの有り難さを気づかせてくれる挨拶があります。ルワンダ語の「おはよう (Mwaramutse)」と「こんにちは (Mwirwe)」です。直訳すれば「昨晚は生き延びましたか？」と「今日は生き長らえていますか？」という意味です。人々が挨拶をこの言葉通り意識して交わしているかどうかは別としても、私たちとは違ったふうに「生」が見えているのです。

すっきり納まり切らない里子のデータ

ルワンダ駐在 河合朝子

私が育った文化の枠から覗いてみて、すっきり納まり切らない里子たちのデータも、ここの文化の枠では当然のことなのです。それにしても、ルワンダの子どもたちに見えている現在の世界はどんなのでしょうか。あちらの枠から覗いてみたい気持ちになります。(河合朝子)

写真・学校の窓から見える風景

子どもたちのチャイルドサポーター(里子1人につき4千円/月)を募集しています。問合せは世界里親会まで☎072(920)2225

気仙沼第一聖書バプテスト教会は、2011年3月に気仙沼市を襲った津波で教会の建物が流失したにもかかわらず、2年近くにわたり緊急支援物資の配布活動(みわきしゆりし)を続けました。当機構もその活動を様々な形で応援してきました。同教会の嶺岸浩牧師は、現在も仮設住宅で暮らしながら被災者目線での支援を続けています。この3月末には「地域に開かれる場にしたい」との願いを込めた新しい教会が完成しました。嶺岸牧師に4年間を振り返りつつ今の思いをお伺いしました。



地域に開かれた教会として再出発！

瓦礫に立つ十字架から

❶ 大きな被災の中でも支援活動を始めることができたのは？

流された教会に東京基督教大学の倉沢先生(前学長、現当機構理事)と学生さんやJIFHの方々が瓦礫撤去に駆け付けてくれました。最後に流木で十字架を立ててくれたのですが、それが全国紙で



嶺岸浩牧師(当時)

紹介され、世界中の方々から励ましや助けをいただきました。私は63才で被災して、教会建物だけでなく5人の子どもの写真1枚も残らないくらいほとんど全てを失いましたが、神様と皆さんの励ましがあつたので、その現実をしっかりと受けとめることができました。

それからサマリタンズパース(米国・当機構パートナー)やJIFHをはじめ色々な支援団体や名前が覚えられない位沢山のボランティアが、私たちの背中(被災者支援活動)をぐいぐい押して

くれました。ですから喪失感にひたる時間もなかったように思います。教会員の中に津波で被災した会社の再建をしながら、物資配布の支援活動や教会の集会のために会社建物の一角を提供してくれたことも大きな支えでした。

市内の仮設全戸を訪問

❷ 支援活動が続ける上で大切にされたことは？

最初の1、2年はいろいろな機会や場所で物資配布を行いました。気仙沼市内93カ所3405戸の仮設住宅を全部廻りました。3年目からは、これまでの訪問で関係性が強くなった方々との交流をより深めるような形にしました。訪問では、寸劇やゲームをしたり歌を歌ったり、聖書から励ましのお話をしました。先日、仮設を出て災害公営住宅に入居されたご夫妻が、仮設仲間の私たちを招いてくださったのですが、この夫婦を励まし続けている女性から「お家の祝福のためにお祈りをお願いします」と言われたので、喜んで祈りをさせて頂きました。感謝なことに



今まで「牧師さん来ないで」なんて言われたことはありません。

❸ 待望の新教会が誕生しました

津波の心配がない高台に3月末に完成した新しい教会建物は、いま市内で一番人が集まりつつある住宅地域にあります。そこに私が入っている仮設住宅もあるのですが、これから地域の皆さんに「教会でお茶っこやるから来てね」と声をかけていくつもりです。サマリタンズパースのベースキャンプに「お茶っこ」コーナーがあつたのを見ていいなと思いました。それで仮設住宅の訪問活動でも「お茶っこ」*をするようにしました。その集まりが近隣の人たちとのよい関係に繋がっていきました。新しい教会は「地域に開かれたコミュニティの教会を目指して」をモットーとしているので、皆さんが気楽に集まれる場になればと願っています。

完成した新しい教会建物

④瓦礫に立つ十字架、物資配布(当時)
⑤現在も続けられている仮設住宅訪問

※「お茶っこ」…近所の人や友だち同士で集まり、お茶などをいただきながらおしゃべりするこ